

平成27年度「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」(津市)の概要

平成28年3月6日(日)に、津市高茶屋のどんぐりの家で、「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、飛び出し注意喚起看板の設置・維持管理事業と広域対応型学童保育事業に取り組んでいる、「『特定非営利活動法人 どんぐりの会』の皆さん」5名に、活動のやりがいや課題などについてご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介)

- 地域企業と連携した子育てと仕事の両立支援の取組として、飛び出し注意喚起看板の設置・維持管理事業と広域対応型学童保育事業を実施している。
- 津市においては、すべての小学校区には放課後児童クラブが設置されていないことから、子どもが小学校に入学したことにより、働き続けられない、希望する仕事に就けないという状況におかれる方がいる。どんぐりの会では、土・日曜日や夜間の預かりの実施、長期休暇中の昼食の提供など、きめ細かいサービスを提供した学童保育事業を行っており、利用者に喜ばれている。
- 飛び出し注意喚起看板事業については、地域の企業・商店などが看板の設置・維持管理にかかる費用を負担するスポンサーになり、どんぐりの会が設置及び月1回以上の点検・清掃を実施している。

- 飛び出し注意看板のスポンサーになることは、企業等にとっては、地域への社会貢献とともに自社のイメージアップにもつながる。また、社員がどんぐりの会の学童保育を利用する際に割引が受けられるので、社員の福利厚生にもなっている。
- 学校側は飛び出し注意看板の設置にかかる費用が不要になり、その費用を別の安全管理対策に充当でき、さらに子どもたちは安心・安全に通学できる。
- どんぐりの会の学童保育は、保護者の役員や当番等がなく、負担が増えることなく働き続けることができる。
- 子どもたちのキャリア教育の一環として、地域の企業を見学させてもらっている。様々な職業を知ることは子どもたちの選択の幅を広げ、地域の企業等と子どもたちを結びつけることで、将来、就職する際に地域にもこういう企業があったと思ってくれるようにしていきたい。
- 学童保育は完全に自主運営で行っており、利用料だけではどうしても経費をまかなえないので、その補填に看板の収益を充てるということを考えた。まず、看板を一気に増やしてから学童をやろう思っていたが、看板事業をやっている途中で「そんな学童あったらいいね」、「早くやったら」という声が挙がってきたので、学童の立ち上げを大幅に前倒しして開始した。

(自己紹介)

- 子どもたち、保護者、企業、社員、学校などの皆さんが、幸せになるような取り組みとなるように活動を行っている。
- 子どもはいるが、学童保育などには関わったことがなく、初めてのことばかりだがいろいろ試行錯誤をしながらやっている。
- 現在、大学院に所属しており、どんぐりの家ができただ頃からは働かせてもらっている。学童保育と白塚地区の飛び出し注意看板の維持管理に携わっている。
- 5、6年前からNPOか何かをしたいと思っていたところ、どんぐりの会の話聞き参加することにした。現場には全然出ないで、情報収集して戦略を練ってというところまでを担っている。
- 経験が浅くまだ分からないことばかりだが、子どもたちとたくさん接して良い経験をさせてもらっているし、自分の将来にも役立てることができると思っている。

Q 活動に携わって楽しかったこと、嬉しかったことなどをお聞かせください。

- 子どもたちが本当に楽しんで参加できるような、思い出になるようなイベントを企画しようと頑張っている。心から楽しんでくれているなと感じられる時がとても嬉しい。
- 飛び出し注意看板の維持管理をしているとき、地域の方にお礼を言われたり、声をかけてもらったりして地域の方と交流ができた時にやりがいを感じる。
- 初めて来た子どもたちは緊張しているが、時が経つにつれ私の膝に座ってくれたり、背中におんぶされに來たり、子ども同士で引っ付きあって遊んだりしている姿を見ると、家族みたいな雰囲気になっていると感じる。その光景にすごく幸せを感じる。

- 親御さんから「うちの子が、最近先生が増えたから楽しかったって言ってましたよ」という話を聞いて、ようやく子どもたちにも受け入れられてきたと思って嬉しかった。
- 会の経営・企画などについて、いろいろと新しいことを考えて、それが上手く運ぶと面白い。
- 学童保育については、保護者の方からの「ありがとう」の言葉が一番嬉しい。飛び出し注意喚起看板事業については、地域の方や学校が喜んでいただいていることと、この事業を行っていることで学童の事業において学校との関係をうまく繋がられているので良かったと思っている。
- 全国規模で行われている賞をいくつか受賞しており、どんぐりの会がやっている事業のスキームがすごいということが認められてきたと感じている。民間団体が募集している助成金に採択される確率もだんだん高くなってきた。

Q 活動の課題、これからの夢などをお聞かせください。

- 子どもたちが楽しんでくれるイベントの企画を考えるために、もう少し勉強も必要だし、子どもたちが卒業した後も「楽しかったな」と思ってもらえるような場となるように深めていきたい。
- もうすぐ4月で新しい子どもたちが何人も入ってくる。今いる子どもたちも雰囲気が変わって心の変化もあると思うし、新しく入ってくる子どもたちも不安だと思うので、早く不安から安心へと繋げていくために、こちらから声掛けをして上手くコミュニケーションをとっていきたい。
- 特に看板事業に関しては営業なので、お客さんのニーズに合わせた営業戦略を考えて提案していきたいと思っている。
- 子どもたちにもっと寄ってきてもらって和やかに過ごしたいと思っている。また、大人として自分も成長していかななくてはいけないとすごく感じている。
- 会を立ち上げた頃は、自分一人ですべてを引っ張ってきたような状況だったが、最近はある程度任せることができるようになってきて、組織としてようやく形になり始めてきたと思う。さらにスタッフを底上げして、組織力を強めていきたい。
- 子どもが病気になっても専門のスペースで預かって、親御さんが安心して仕事に行けるというのが今のニーズだと思うので、それを叶えていけるような複合施設をここ津市で、三重県でやっていきたいと思っている。

【前野県議会議員の発言】

○どんぐりの会が実施している飛び出し注意喚起看板事業は、設置後も責任を持って維持管理されている。「こんな所にあると危ない」と言われたら飛んで行ってまた設置場所を考えたりもして、素晴らしい活動だと思っている。

【青木県議会議員の発言】

○私の地元の小学校区に放課後児童クラブができることになったが、10数年前に要

望が上がってようやく今年出来たという状況。保護者が立ち上げるのは非常にリスクも大きく厳しいので、その思いに立って活動されていることに敬意を表したい。

【知事の発言】

- 異年齢の子どもたちが交わり、教えあったり学びあったりする機会は非常に重要で、それがしかも家族のようであるというのは非常に素晴らしい。
- 学童保育で提供するサービスを維持させるために、この飛び出し注意喚起看板事業を実施するというビジネスモデルを確立しているのは、なかなか全国的にもあまり無いようなモデルであり、よく出来た事業スキームである。
- 子どもたちは、毎日が未来への分岐点だと思っているので、良い方向に向かう分岐点が毎日積み重なっていくような、そういう場所にみんなでもってほしい。
- 家族のあり方が多様化している状況なので、家族だけで子どもの面倒をみるよりは、いろんなリソース、いろんな人たちが関わる方が子どもたちにとっても、子育てしている親にとっても良いと思うので、是非頑張してほしい。

